能登半島地震への派遣

※支援などの情報は、市ホームページ（右記 QR）へ　**問合せ**　防災危機管理課へ

2/17㈯～21㈬ 石川県穴水町で第１回目の応急給水活動を実施

自衛隊の給水タンクへ水を給水している様子

第１回目の応急給水活動に向け、職員４人が給水タンク車１台と支援車１台に乗って、石川県穴水町へ向かいました。金沢市水道局城北水質管理センターへ到着後、河内長野市から引き継ぎを受け、活動を開始。受水槽へ水を給水したり、給水袋へ水を入れ配布するなど給水活動に従事しました。

帰任後に職員は「崩れた建物や道路があり活動を妨げている状況もあった」などと報告しました。

2/19㈪～26㈪ 輪島市立河井小学校で避難所運営を支援

災害派遣職員から現地での活動報告を受ける森山一正市長

輪島市立河合小学校で避難所の運営を支援するため、職員を１人派遣しました。職員は、輪島市やボランティア団体との調整、避難者からの要望の受付、トイレの清掃、食事の配膳、灯油の管理など、多岐にわたる業務に従事しました。

帰任後に職員は「全国から職員が派遣されており、日本の結束力を感じた」「災害へ備えることの重要さを改めて実感した」などと報告しました。

いま一度、防災対策をしっかりと

2/17㈯～18㈰ 避難行動要支援者の避難を考える広域避難訓練

バギーや車いすの利用者が乗降機を使ってバスへ乗車している様子

昨年 10 月に引き続き、相互応援協定を締結している兵庫県新温泉町へバスで移動し、広域避難に必要な条件や事前準備について検討しました。

２回目となる今回の広域避難訓練には、障害のある人を含む４家族 12 人が参加。参加者からは「訓練をとおして広域避難が選択肢の一つとなった」「2回目の訓練なので、必要な事前準備が具体的にイメージできた」などの意見が上がりました。

3/2㈯ 多様な人の多様な避難を考えるセミナーを開催

登壇者の発表をメモを取りながら、熱心に聞く参加者たち

コミュニティプラザで、多様な人が安心して過ごせる避難所のあり方について、有識者が研究結果を発表し、避難行動要支援者とその家族など、約 150 人が熱心に耳を傾けました。

東北福祉大学の石塚教授（都市・地方計画）は「多様な人が過ごせる避難所づくりと広域避難のシステム化の両面で検討を深めていかなければならない」と提言しました。